

区政のここが聞きたい

一般質問と答弁 要旨



区民の思いに敏感であれ！ 遺贈／廃棄物／公用車

自由民主党目黒区議団 西村 ちほ 議員

<円滑な遺贈受け入れのために>
相続人不在の単身者の増加などに伴い、今後目黒区への寄附として遺贈(※1)の希望が増えることが考えられる。目黒区は価値ある不動産の遺贈を放棄した経験があることも踏まえ、遺贈の受け入れを推進するための取り組みを伺う。

区長 遺贈の受け入れという観点だけでなく、意義のある終活に対し、今一歩踏み込んで、区がどのような役割を担えるのか、他自治体の取り組みも参考にしながら調査研究していきたい。

<廃棄物の行方について>
(1)区の廃棄物、特に個人情報など重要

情報を含む廃棄物は、不正な流出を防止するよう細心の注意が必要。管理体制はどうか。(2)防災用備蓄品を保証期限切れ前に入れ替える際、旧物品は廃棄処分されている。紙おむつをはじめ、問題なく使用できる状態の物品は、廃棄ではなく活用を。

区長 (1)既存の物品等の処分及び処理に当たっては適切に対応しているが、契約事務説明会等の様々な機会に職員に周知し、引き続き適切な対応に努める。(2)「捨てるのはもったいない」という意識を念頭に置きながら、防災用の備蓄品について、可能な限り有効活用し、大量破棄を少なくする取り組みを続けてい

く。
<区長公用車の適正使用について>
区長は公用車を寄席・映画館・スポーツクラブなど私用に使っていないか？
区長 公務を効率的に執行するため、公務と公務の間に私用を済ませる場合等はあるが、許容される範囲と考えている。公務以外の内容は差し控える。

[用語解説]

※1 遺贈：遺言によって財産を第三者に贈与すること。



「支え合う温かな目黒」をめざして

公明党目黒区議団 いいじま 和代 議員

<「SDGs」(※1)持続可能な開発目標)の対策について>
(1)目黒区の「SDGs」廃プラスチックレジ袋の対策の現状を伺う。(2)「障がい者アート」とコラボして、目黒区オリジナルエコバッグを製作し、「SDGs」を区民により見える形で積極的に推進すべきである。(3)目黒区オリジナルエコバッグを区役所職員及び教育関係者等全ての人が購入し、区役所内から「SDGs」の大きな変革の波を起こすべきである。

区長 (1)めぐろ買い物ルールを推進し、プラスチックごみの発生抑制を図り、分別回収の徹底と循環利用を推進していく。(2)循環型社会の実現に向けた取り組みと、障害者アートを発信する活動とが連携することで、相互にメリットのある取り組みを進めるよう検討していく。(3)啓発品として最大限活用し、区の関連施設等で販売を働きかけ、使い捨て型のライフスタイルの見直しが進むよう普及啓発を図る。

<中高年のひきこもり「8050問題」(※2)について>

(1)ひきこもり実態調査を行い中高年のひきこもりの実態把握をするべきである。(2)「ひきこもりサポーター養成講座」等で家族の方々の間を繋げ、目黒区の家族会をつくる必要がある。(3)目黒区においては、相談窓口が開設され相談を行っているが、今後アウトリーチ(※3)事業も行うべきである。(4)家族や当事者の方が気楽に集うことの出来る「居場所カフェ」が必要である。

区長 (1)令和2年度に実態調査の実施を検討していく。(2)当事者や家族が社会から孤立することなく生活ができるよう、必要な支援等について、ご意見を聞いていく。(3)相談を待つのではなく、積極的に地域に出向き、支援を必要とする当事者にソーシャルワークによる支

援等を提供する。(4)社会からの孤立を防ぐ取り組みとして、当事者及び家族の「居場所」づくりを検討する。

[用語解説]

※1 SDGs: 2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す、普遍的な行動を呼びかけている。

※2 8050問題: 80代の高齢の親と引きこもる50代の未婚の子が同居する家族の諸問題。

※3 アウトリーチ: 支援が必要であるにもかかわらず届いていない人に対し、行政や支援機関などが積極的に働きかけて、情報・支援を届けるプロセス。



今こそ、本気の温暖化対策を。

立憲民主・目黒フォーラム 西崎 つばさ 議員

<気候変動について>
(1)深刻な気象災害は、日本だけでなく世界各地で発生しており、背景に温暖化があるとされている。この機を捉えて気候非常事態を宣言し、従来と異なる次元での温暖化対策に取り組むべきと考えるが、どうか。(2)電力調達的手法を見直し、再生可能エネルギーの

利用を強力に進めていくべきと考えるが、どうか。
区長 (1)各自治体の宣言自体を否定するつもりはないが、現段階では、気候非常事態を宣言することまでは考えていない。気候非常事態宣言にかかる他の自治体の動向等について、調査・研究していく。(2)「めぐろエコ・プランⅢ」

に沿ってさらなる再生可能エネルギーの利用促進の検討を行うにあたり、特に費用対効果の観点から詳細な調査・研究に努めながら、より慎重に考えていく。

<医療費について>

健康増進策や予防医療に、医療費や社会保障費を抑制する根拠がないことは、医療経済学では常識である。健康寿命の延伸は、医療費抑制ではなく区民のQOL(生命・生活の質)を向上させる観点から推進すべきであると考えが、どうか。

区長 区民一人一人が健康で生き生きと過ごしていただくことを目的として健康増進・予防事業を行っているもので

あり、医療費との相関のみにとらわれることなく、今後も積極的に取り組みを進めていく。

<スマート自治体に向けて>

将来的なスマート自治体に向けて、国からも多くの法令や指針が示されており、既存の事務事業の見直しも必要となるが、準備の状況は。

区長 区民の利便性の向上、行政運営の一層の効率化を目指しながら、急速なICTの進展を踏まえて国や都の動向を注視するとともに、先行自治体の事例の研究を行い、限られた人員を有効に活用して高度なサービスを提供するスマート自治体の実現に向け、取り組みを進めて行く。

<目黒上空の実機飛行を見て区長の認識を問う>

(1)区長は実機飛行を見てどう思ったか。(2)不安が広がる中、地元を理解を得られたと思うのか。(3)実機飛行を見てもなお、首都圏の国際競争力のためやむを得ないという答弁は変わらないのか。(4)低空飛行の騒音が原因で心疾患や精神疾患になっても病気に對する補償は殆どない。区長は28万区民の命やくらしを守る責任がある。区民を守るため、国交省や国に對し要望はしないのか。
区長 (1)実機飛行を見た区民の皆さまからの意見・要望は、責任を持って国へ伝えていく。(2)国が責任を持って判断すべきで、区としての判断を示すことは考えていない。(3)国が法令に基づき新飛行経路の運用を決定し、実機飛行確認が開始されていると理解している。(4)区民の皆さまから、航空機騒音に起因する病気などの声は、今後も、責任を持っ

てしっかりと国へ伝える。
<駒場国家公務員住宅跡地の住民要求、行政課題はどのように実現しようとしているのか>
(1)民間事業者はより利益率の高い計画を出すことが予想される。住民要求、行政課題を実現するため、あらゆる手段を使って国に提案書をあげよ。(2)住民要求であるレクホールや調理室設置を国や事業者に働きかけるべきではないか。

区長 (1)区及び地域にとってウィンウィンとなるような活用案策定に向けて、丁寧に議会及び地域の方々の意見を伺いながら進める。(2)整備すべきコミュニティスペースは、地域の方々から自由に活用し、近隣の学校に通う学生等、様々な方々が気軽に立ち寄り、利用できるスペースとなるように進めていく。



区立図書館と学校図書館 “どうする”問題

新風めぐろ かいでん 和弘 議員

<館の外へ飛び出していく区立図書館へ>
ここ10年間、目黒区の人口も図書館の蔵書数も増加しているにも関わらず、貸出者数、貸出点数など、図書館の利用度合いを示すあらゆる数値が減少している。これからの図書館経営にあたっては、“一部の読書好きな常連さん”だけを向いた“待ち”の姿勢ではなく、館の外に出て、図書館に縁がなかった人を取り込むアウトリーチ(※1)型のイベントが必要ではないか。

教育長 例として、中目黒での児童虐待撲滅イベントへ出向き、関連図書ブックリストを参加者に配付したり、中目黒駅前図書館に関連図書展示コーナーを設け、イベント参加者を図書館に引き込むような試みも始めている。分館でのイベント開催を要する声もあり、引き続き検討していく。

<やりがい搾取の学校図書館を改善しよう>
さまざまな機能を持つ学校図書館(※

2)も、子どもと蔵書を結ぶ学校司書(※3)がいてこそ効果を発揮する。法律上、学校司書の配置は努力義務となっているが、本区では有償ボランティアの“学校図書館支援員”に代役をお願いしている。しかし待遇が問題で、小学校担当で1授業日あたり41分、中学校担当で1時間23分までしか報酬が支給されない(23区で最悪)など、仕事量に見合わない“やりがい搾取”の状態が続いている。まずは待遇を改善し、学校図書館の機能強化を図るべきである。

教育長 学校図書館支援員の派遣時間数は、有資格者である司書教諭が中学校よりも小学校に多く配置されているため、派遣時間を中学校に多く設定し、学校図書館の運営改善及び向上を図り、利用促進を図ってきた経緯がある。現在、各学校図書館支援員にアンケート調査

を実施し、近頃の活動状況等について伺っている。この調査結果を取りまとめた上で、児童・生徒の学校図書利用をより充実させるため、派遣時間数上限や処遇改善等も含め、今後の活動内容や派遣形態について調査研究していく。

[用語解説]

※1 アウトリーチ: 英語で「手を伸ばすこと」を意味する。館外で行う活動。自ら出向かない人々に対し、図書館に関心を持ってもらうために出張やイベントなどを行うこと。

※2 学校図書館: いわゆる学校内の「図書室」のこと。正式名称は「学校図書館」という。

※3 学校司書: 学校図書館において司書にあたる業務を行う職員。



「宝くじ」私を選挙に連れてって。目黒川では魚釣り!

松田 哲也 議員

<区長の年収や退職金を返上しろ>
区長の4年間の収入は約9,500万円。都知事並&大阪府知事より約3,000万円も高い。ましてや公選の区長が、職員同様の高額退職金を、改選の度に得ることは有り得ない。行政コストを見直す前に、自らのコストを見直せ。

区長 今後の人材を確保するという面からも、他区との均衡は必要であり、退職手当等の廃止等を行うことは考えていない。

<家族で選挙にレッツゴー>

区長選の投票率は僅か26%、風船等に毎回200万円かけてもムダ。都知事並&大阪府知事より約3,000万円も高い。ましてや公選の区長が、職員同様の高額退職金を、改選の度に得ることは有り得ない。行政コストを見直す前に、自らのコストを見直せ。

選挙管理委員会事務局長 宝くじ付き投票券を導入する考えはないが、投票率の減少傾向を食い止める対策を講じるべきと考えており、調査・研究していく。家族特典として導入できるアイデア



全ての区民生活の安全と安心を考えて

自由民主党目黒区議団 いその 弘三 議員

自転車ナビマークが設置されてきている中での交通安全を考える必要性がある。
区長 交通ルール・運転マナーの周知、自転車走行環境の整備及び自転車ナビマークの周知などの施策を総合的に進めていくことが重要と考えており、自転

車が安全に利用されるよう取り組みを進めていく。
防犯カメラでカバーできないエリアの安心と安全をどう対策していくか考える必要があるので短期間の貸出用の防犯カメラを数台用意する必要性がある。

区長 地域や個人の要望に応じて、防犯カメラの貸し出しをすることは、その目的を明らかにし、個人情報の保護など運用に係る様々な側面からの調査・研究が必要と考えている。

災害が生じた時に目黒区は川や狭い道、坂道や崖地といった地理的な事情があり、様々な障害が生じる可能性があり、できるだけ想定と備え、対応と対策をしていかなければならない。多くの情報収集や対応をするためにドローンを活用していく必要がある。

区長 ドローンの災害時の活用についての検討は進んでないが、今後、災害用ドローンの効果的な運用方法や民間事

業者との連携について、調査・研究を進めていく。

区長交際費の支出基準と政治団体の存在と収支について質問する。

区長 公表されている「区長交際費支出基準」において、支出の範囲を定め、基準以外に明文化された内規はない。

支出基準の範囲に該当しないものは、私費で対応している。

政治団体はある。団体の年間の支出は、政治資金規正法に則って、適切に対応している。



地域猫活動支援を、危ない羽田低空飛行、駒場住宅跡地

日本共産党目黒区議団 斉藤 優子 議員

<公益性の高い地域猫活動をする人た
ちを多方面からサポートするべきではないか>
(1)新規ボランティアを育成し補助していくべきではないか。(ア)定期講習会をおこなうべきではないか。(イ)職質を受ける、罵倒されることを防ぐため腕章を配布してはどうか。(ウ)活動助成金を出してはどうか。(2)公益性の高い地域猫活動を地域住民に理解が得られるよう周知をすべき。(3)助成制度の申請を事前申請から事後申請へ変えてはどうか。(4)猫の適正飼養ガイドラインをもっと具体的にわかりやすい内容へ改定して

はどうか。
区長 (1)(ア)講習会を定期的に開催していくことを検討し、ボランティア活動をされている方から直接話を伺い、より良い告知方法を検討していく。(イ)腕章の配布は考えていない。(ウ)活動に係る助成金創設は考えていない。(2)地域猫活動に係る講習会開催も検討しており、活動を区民に理解いただくための努力を重ねる。(3)事後申請を含めた申請に拡大することを含めて、執行率を回復させる方法を多角的に検討する。(4)ガイドラインの内容構成を検討する際は、ご意見を参考にする。

て、利用者ニーズや近隣区の状況を踏まえ、調査研究していく。

<区内の公衆トイレについて>

(1)区内の公衆トイレの利用調査を行い改善できないか。(2)公園に設置されている和式型のトイレに手すりなど設置はできないか。

区長 (1)利用者の困りごとを改善するため、どのような調査ができるか検討する。(2)洋式化に向けた取り組みを進めるとともに、和式型への応急的な手すりや、つかまり棒などの取り付けについて、対応できるものは設置していく。

<死亡後の手続きについて>
ご家族がお亡くなりになった後の区役所での手続きは、時間がかかる。他の自治体ではお悔やみ窓口を開設して専門の職員が付き添い、書類を簡素化して所要時間を短縮している。区民の利便性向上のため専用窓口となるお悔やみ窓口を設置できないか。

区長 先行自治体の専用窓口がどのように利用されているか情報収集するとともに、本区の実情に合った窓口のあり方について検討していく。



身近な施策で区民の健康増進や利便性の向上を求める

公明党目黒区議団 武藤 まさひろ 議員

<トレーニング室の利用について>
(1)トレーニング室の今後、利用者の拡大や利用者の満足度を高めるためにどのように取り組んでいくのか伺う。(2)定期利用券を購入した方の利用日数の差を改善できないか。

区長 (1)指定管理者と連携しながら、区民ニーズの把握に努め、利用者の健康増進とともに利用者数拡大や満足度向上に資するよう取り組む。(2)定期利用券販売に際しては、引き続き利用者への案内に努め、休館期間の取り扱いについ